

### 3. 交 歓 ス ケ ジ ュ ー ル

#### 園 遊 会

4月6日 午前 11:30 東京大学構内 懐徳館  
50周年記念行事の皮切りとして、東京大学総長主催の園遊会が東大構内懐徳館において催された。

定刻の少し前から、コンパニオンに伴われた外人招待者が次々と懐徳館に到着した。外人招待者の多くは夫人同伴で出席され、その数は47名にのぼり、それに付随して各人のコンパニオン30余名も出席した。主催者側からは大河内東大総長ご夫妻をはじめ、三島名誉教授(本会前会長)他10余名が出席された。



大河内総長を囲んで

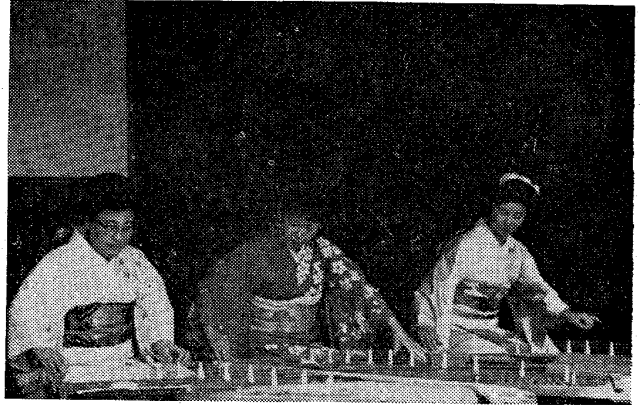
来日以来初の公式パーティーであり、しかも純日本式庭園でのガーデン・パーティーなので、招待客の喜びは大きかった。加えて当日は見事に晴れあがり、春の陽射しに包まれてあたりにはれんぎょうの花も咲きほころび明るい雰囲気であった。

パーティは、和服のお嬢さん方による琴とバイオリンの演奏に始まり、次いで大河内総長から歓迎の挨拶が述べられた。ひき続いて三島前会長の音頭で乾杯が行なわれ、昼食が始められた。

当日の会場である日本庭園内には各所に純白のテーブル・クロスに覆われたテーブルが配され、その上にはビールをはじめ各種飲み物、オードブル、サンドウィッチお寿司が色どり美しく並べられた。

出席者は各自随意にテーブルをまわり、好みの物を皿にとり、簡素で気楽なこのパーティーを楽しんだ。

また外国語に堪能な令嬢3人(林・日本鋼管川崎副所長令嬢、森・八幡製鉄審議役令嬢、野尻令嬢)が美しい振袖姿でホステス役を勤め、パーティの席上を一層華やかなものにした。外人客のなかには、早くから来日して



琴演奏

すでに日本各地の工場や観光地を廻って来た人もあり、さらには古くからの知人も多く実に親しみ溢れる交歓が繰りひろげられた。特に今回一番大勢で来日したドイツグループも午前中の工場見学を早めに切りあげこのパーティーに参加したため、より盛大になったといえよう。

華やかな園遊会が終了すると、出席者一同は東京大学側の案内で、咲始めた桜の花を楽しみつつ、三四郎池を廻ってゆつくりと式典会場安田講堂へと歩を進めた。

園遊会が願つてもない晴天に恵まれて、盛会のうちに終了できたのは喜ばしいかぎりである。

#### 見 学 旅 行

このたびの記念式典に出席された外人賓客のため用意された工場見学旅行は、国内各地の観光もかねて4月8日、3つのグループにわかれ、それぞれ出発した。

旅程の概略ならびに参加人員をあげると次のとおりである。



富士広畑製鉄所を見学するBグループ

## Aグループ 招待者2名 婦人1名

4月8日、川崎製鉄(千葉)→9日、日本鋼管(水江)→10日、箱根(湯本)→11日、東京→日光。

## Bグループ 招待者7名 婦人3名

4月8日、姫路→9日、富士製鉄(広畑)→10日、住友金属工業(和歌山)→11日、奈良→12日、京都→東京。

## Cグループ 招待者11名 婦人7名

4月8日、熊本→9日、阿蘇山→小倉→10日、八幡製鉄(八幡・戸畑)→京都→11日、京都→12日、神戸製鋼(神戸)→東京。

まずAグループには、C. Prieto 氏夫妻が参加し、8日・9日の工場見学のみ H. Malcor 氏が加わった。このグループは少人数であつたため、本会からは同行しなかつたが、8日・9日の工場見学では Prieto 氏のためには特にスペイン語の通訳をつけ、無事に見学を終えることができた。この間、Prieto 夫人は8日に東京都内見物、9日には横浜市内の見物を行ない、その後夫妻で箱根、日光を見物した。

Bグループは8日、新幹線で一路大阪に向かい、そのまま姫路へ直行した。翌9日は富士製鉄広畑製鉄所において永野社長以下出迎えのうちに、高炉から圧延までの各工場を見学した。この間婦人たちは富士製鉄現地の婦人方の好意ある案内のもとに、姫路市内の観光を楽しんだ。その後一行はただちに和歌山へ向かい、10日には住友金属工業和歌山製鉄所を見学した。この日も婦人たちは、住友金属工業現地の奥様方の案内により和歌山近辺の見物を楽しんだ。非常な強行軍であつたが、その日の午後奈良に行き同地に宿泊した。11日、奈良では薬師寺法隆寺、唐招提寺をまわり古都の春を心ゆくまで味われた後京都にまわつた。12日、京都での柱離宮見物には沢村本会前会長も加わり、ともにこの庭園の日本美を楽しまれた。この日京都は折からの寒波で肌寒く、名物のしだれ桜を見物できなかつたのを心残りにしながら、その日のうちに新幹線で帰京した。このBグループには、本会から三沢技術部員が同行した。

Cグループは8日午後の飛行機で一路熊本へ向かつた。このグループには本会から小舞、平野技術部員が同行し、幹事役を勤めた。飛行機は途中相当揺れたが、別段何事もなく一同和気あいあいとした雰囲気の中に無事熊本に着いた。

このグループには、ドイツ人が多く集中しており、また他のグループよりも婦人の参加者が多く、常に笑いの断えない楽しい旅行団であつた。一行中の Lacombe 氏は、来日は初めてであるにもかかわらず、器用に箸を使

い、サシミを食べ、日本酒を飲むといったように、親日家振りを示していた。9日にはバスで阿蘇山へ登り、山頂からの眺望を楽しんだ。夕方、汽車で小倉に向かい、夜は湯川副社長(本会会長)をはじめ多数の出迎えのうちに、八幡製鉄のカクテルパーティーが開催された。翌10日は朝から八幡製造所、戸畑製造所の見学が行なわれた。戸畑では第3号高炉工場、転炉工場、コールド、ホット・ストリップ工場を見学したが、世界に誇る新鋭工場を目のあたりに見て改めて日本の製鉄業の威力を認識したと思われる。この間婦人方は八幡製鉄現地の婦人の案内によつて北九州市近郊の観光を楽しんだ。その後一同飛行機で京都へ向かつた。



八幡製鉄所で説明を聞くCグループ

11日は晴天の日曜日で、京都市内見物を大いに楽しんだ。なお午後から奈良へ行く予定でいたが急きよスケジュールを変更して夜は都踊りを見物した。その美しさには感嘆の声をあげ、特に婦人方は大変な喜びようであつた。12日は神戸製鋼所神戸工場の高炉工場、第4線材工場を見学し、夕方の新幹線で無事に帰京した。

最後に、このたびの見学旅行が好首尾のうちに終了できたのは、ひとえに見学に際しての各社のご高配、ご協力によるものであつて、ここに深く感謝の意を表する次第である。

なお来日外人客の帰国後の手紙にも、日本での思い出として必ず見学旅行があげられていることをみても、彼らのこの旅行に対する好印象が伺われると思われる。

## 鎌倉ドライブ

4月7日(水)

記念式典翌日の4月7日、このたび来日された外人婦人客のために、鎌倉までの日帰りバス旅行が行なわれた。参加者は、ドイツ婦人4名はじめアメリカ、オランダなど10カ国16名、ドイツ人男性2名、それにコンパニオン8名、本会職員およびガイドを加え総計31名であった。

当日朝帝国ホテル新館ロビーに集合した一行は、午前9時10分バスで鎌倉に向け出発した。参加者の多くは来日後間もないため、車窓に展開する風景をもの珍らしげに眺めていた。バスの中では、ガイドの英、仏2カ国語による説明のほか、添乗した婦人コンパニオンによつて個々に説明や会話がかわされなごやかな雰囲気であった。丁度新学期のはじまった時であり、ランドセルを背負い胸に名札をつけ、黄色い帽子をかぶった新入生が数多く見かけられた。バスがそれら学童とすれ違うたびにバスの中には婦人たちの歓声がみち、その珍しい風俗に対する質問がしきりであった。バスが川崎、横浜の市街をはずれると、両側の土手にはれんぎょうの黄色い花が、春の陽をあびて美しく咲きほこつていた。“あの花が咲くと私の国にも春が来るのです”，と故郷の春を思い出している声もあり、各人各様に異郷の春を楽しんでいたようである。

2時間あまりでバスは鎌倉大仏前に到着し、当地在住の本会会員夫人方に出迎えられて、まず大仏を見物した。13世紀に建造されたこの青銅の仏に感嘆の声がしきりで、盛んにシャッターがぎられた。

その後大仏の所有者である佐藤邸で一同接待をうけた。佐藤邸には、本会会員の夫人方によつて万全の準備が整えられており、最初に佐藤夫人の英語の解説によつ

て日本座敷で茶の湯が披露された。続いて黒塗りのお盆の上に白砂で富士山の姿や花々を見事に描き出すお盆石が一同の目を奪つた。



鎌倉における一行

また生け花の実演にも婦人客は皆神経を集中し、メモをとるほどの熱心さであった。

次いで昼食が始められた。各種の日本の食物を盛り合わせた懐石料理は、味覚とともに目を楽しませてくれた。ある者は日本式庭園で、ある者は座敷で思い思いにこの心のこもつた昼食を楽しんだ。

婦人客は大仏のミニチュアをこの日の思い出に、名残りの尽きぬまま午後1時半帰途についた。

この日鎌倉の空は青く晴れわたり、木々の緑が美しかった。鎌倉の婦人方のご協力とともに、この好天気がドライブを成功に導いてくれたといえよう。